

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401608		
法人名	有限会社 八神		
事業所名	グループホーム「あまぎり」		
所在地	長崎県南島原市深江町丙357番地		
自己評価作成日	平成30年1月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成30年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「毎日が笑顔」をモットーとし、季節の食材を美味しく食べる。  
洗濯物を干したり、たたんだり食材の下ごしらえを職員と一緒にしています  
家族の面会時間を制限せず夜間寝顔を見に来られる家族や昼食夕食の介助に毎日来て下さる家族がいらっやいます  
残された人生に家族が関われる時間を支援したいと思います

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年、船舶塗装の仕事がされていた創設者が、護衛艦の名前から「グループホームあまぎり」と名付けられ、残り少ない人生を、美味しい物を食べて、入居者が毎日笑顔で暮らしてもらいたい、親孝行をしたいという思いでホームを建てられた。ホームでは地域の方から頂いた旬の野菜を使って入居者が美味しく食べられるように配慮している。餅つき・雑祭り・節分・誕生会等の際には行事食を提供し、餅つきでは家族も参加と一緒に餅を丸めるなど楽しむ支援がなされている。近隣の方が土産を持って来訪されたり、野菜や果物のおすそ分けなどを持ってこられたりするほか、地域の僧侶の訪問コンサートの慰問の受け入れや地域の方が困られた際には手伝いに行くなど地域住民との関わりが深い。職員は家族との関わりも密にしながら入居者の希望に応えられるよう暮らしへの支援に日々取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「毎日が笑顔」をモットーに利用者、利用者の家族、職員の笑顔を多く見られる様に心がけている	理念を基に職員は、入居者の希望に応えられるように日々の暮らしを支援し、家族と話し合いながら実践に取り組まれている。リビングに理念を掲げていたが、現在は掲げてないので、理念を意識づける為に掲示する予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のパン屋、スーパー、への買い物へ出かけたり野菜やイチゴを頂きに畑に行きます	ホームとして自治会には加入していないが、近隣の方が、土産を持って来られたり、野菜・イチゴのおすそ分けがあり、困られた際には手伝いに行くなど近所付き合いがある。また、地域の僧侶の訪問コンサートの慰問を受け入れるなど地域と交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	インターンシップ(高校生)、福祉体験学習(中学生)の受け入れをしました		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	8月8日入所され8月10日退所1名、8月20日入所され8月21日退所1名の利用料金について話し合い介護保険自己負担を10割としてもよいのではとの意見が出ました	年6回運営推進会議を行い、市職員・市議会議員・他の自治会長の参加がある。入居者の状況・取り組みを知らせ、要望・情報を得て運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入所契約して1日2日で退所、2泊3日で退所のかたの入退所報告について介護保険課の植木様に相談し自己負担の1割を利用者様からいただきました	運営推進会議は、市議会議員・市職員に参加してもらい、意見・情報を得ている。市担当者には、短期間入所の方の利用料について相談にのってもらいなど協力関係を築きながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束0宣言をしています 帰宅願望のかたは居場所確認や職員全員の目配り、声かけ玄関の鍵は常にあけてあります	日中の玄関は施錠をせず、見守りで対応して支援を行っている。前もつての対応(転倒防止の為、人感センサーをトイレに使用し照明が付くようにする・ベットから布団に変える等)により、リスクを軽減するように配慮して支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護拒否や暴力行為がある場合職員交代や時間を空け声掛けする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援なし		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時説明し同意してもらう		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時、必要な時電話にて要望、意見を聴くお便りや個人の写真集を送ると遠方の家族より電話があり本人とお話しされるLINEでのやり取りをしている家族もあります	面会はいつでもでき、家族が職員と一緒に(食事・口腔・入浴)介助を行い、意見・要望を聞き、支援に取り組んでいる。ホーム便りには入居者の写真を載せたり、ラインで家族に入居者の状態を知らせ、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングで利用者、家族の要望を報告 支援について意見交換し介護方法を統一する	ホームでは毎朝のミーティング、月1回の職員会議の際に入居者・家族の要望や、職員の提案を聞きプランに反映させて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時希望を記入してもらう 労務士の方と話し合いながら」給与水準を設定		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	長崎県グループホーム協会主催の研修、島原半島グループホーム連絡協議会本部の研修、南ブロック研修に参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	4月に合同花見会を実施、11月にRUN伴の運営の手伝い、参加 また、近くのグループホームの方々との近況報告		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報作成し、ご家族に本人の出来る事を聞き、家族と話し合いをし了解の元サービスを提供する		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	「あまぎり」での暮らしぶりを見ていただきたいので、入所されて不安を感じられる場合は毎日でも面会に来ていただく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、医療機関、居宅からの情報提供と家族の希望や本人の様子を見ながら作成		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る部分は声掛け・見守りを行い、出来ない部分は手助けさせていただく		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時やTELにて近況報告 衣服等の補充や困っていることなど家族からの相談をその都度気軽に話をしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆の自宅への外泊者は1名、年末年始の外泊者は4名いました あまぎりだよりを作成し、個人写真を載せ、家族・子供・孫・ひ孫様に発送しています	家族・友人の面会があった際は、声掛けをして、リビングのソファや居室でゆっくり会話ができるように支援を行っている。家族の希望により毎日来訪し、昼・夜の食事・口腔ケア・入浴介助を職員と一緒にケアを行うなど、入居者・職員・家族が一体化したサービス提供を行っている様子が窺われた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人とソファで喋りをされたり、一緒にテーブルで作業をすることによりすることで会話をたのしまれている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院になられた方に対して、家族の要望で洗濯したり、オムツの搬入など家族と相談・連絡しながら行う また、退所者の家族が気軽に野菜やタオルなど持ってきてくださることもある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中で、入居者の思いや悩みを知り、その方が笑顔で暮らせるように支援する	職員は入居者に毎日声掛けをして、表情や仕草を見て、入居者の思いを汲み取るように支援を行っている。不穏な行動の入居者には、散歩にお連れして気分転換を図れるように支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの聞き取りをしますが、本人も分からず、家族もなかなか把握していないことがあり、食い違いも多々あり		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	視診・触診・バイタルや夜間の様子・日常の会話の中で把握する		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	検討会を開き、本人・家族の希望を聞き、日々の様子など職員に話を聞きながら、それに基づいて計画を作成する	平成27年に日々の記録様式を変更し、簡潔な記録様式とされ、介護計画に反映し易くなっており、入居者や家族の思いや現状に即した計画が作成されている。入居間もない方は、介護計画を3ヶ月に1回見直し状態に変更がない際は、半年に1回見直しを行い、必要に応じて随時見直しを行い支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、ケアプランチェック表、看護記録を活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望、本人の特変時に素早く対応		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族へ受診前後の報告を行う また家族からの相談・希望など主治医に伝え、アドバイスをいただき、家族に伝える	入居者や家族の希望のかかりつけ医を家族の対応で受診し、家族が協力できない際には、職員対応で受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護職員へ情報を伝え、その方が適切な看護、受診がうけられるよう連携を図る		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供、本人の問題行動について介護サマリーを提供する		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	平成27年11月に看取りをしました 必要な書類を作成し、家族・主治医・訪問看護等との連携、指針作成し、家族への説明・同意をとる	管理者は、ビハラー活動の研修会に参加して入居者・職員の不安を取り除いて積極的に看取りに取り組たいと思われている。入居者の状態に応じて、医師・家族・職員と連携して繰り返し話し合いながら看取りへの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等には各自何をやらなければならないか状況に応じて行動できる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	近隣住民、ホームの近くの家族の方の協力は得られるように話をしています	年2回、消防署立会い、自主訓練の昼及び夜間想定火災消防避難訓練を実施し、消防訓練の後に防災訓練(大雨を想定して、避難指示が出た際、車に乗って避難まで)を実施している。	防災訓練は年2回の避難訓練の後に自主訓練をされているが記録が確認できなかったため、記録を残しておくことが望まれる。また、備蓄品リストは作成しているが、消費期限の管理及び備蓄管理の担当者を決めて取り組まれる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合わせた言葉かけをする中にも敬意を払った言葉かけ、対応をする	職員への接遇マナーの研修会は、日総研(介護接遇研修)のCDを見て内部研修会を行っている。居室に入室の際は、声かけをして入るようにし、プライバシーに配慮して支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言いたいことは本人の様子で分かりますが、言葉を発し、意思を伝えてもらうよう支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や外に出たいとの訴えに支援 また、帰宅願望ある方には、無理強いせず、「さようなら、いってらっしゃい」と声掛けし、一緒に外出する		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣の仕方がおかしいときは声かけし納得されるまでから着替えてもらう (ジャンパーやチョッキを2枚着用……)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を活かし美味しく食べてもらう 飲み終えたコップをかたずけてくださる	職員が1週間分ずつ献立を立てている。頂いた旬の野菜(キャベツ)を使ってどのような料理があるかを問いかけ、入居者が旬の食材を美味しく食べられるように配慮している。餅つき、雛祭り、節分、誕生会等の行事食を楽しみ、餅つきは一緒に餅を丸めて手伝ってもらい楽しんでもらう支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お肉を好まれない方はお魚や豆腐にしたり、野菜を好まれない方には煮たりみじん切りにしてだしたり、野菜ジュースを飲用また水分はルイボス茶を1日1500ml以上を飲用していただいています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをしていただき夜間義歯洗浄剤にて消毒		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排尿パターンを24時間シートにて把握、頻尿のかたは主治医との連携を取り薬の処方あり	2時間おきに声かけをしてトイレ誘導をし、排泄できるようにしている。失敗された際は清拭をして、清潔に留意するよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と野菜類の摂取に気掛けてます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気の合った人と入浴され湯船の中で歌をうたわれています 冬場はミカン風呂、ゆず湯、を希望有り実行してます	入浴は1日置きに入浴支援を行い、重度の方には職員2人対応でケガをしないように注意して支援に努めている。冬にはなるべく湯船に浸かってもらうようにし、歌を唄いながら楽しんでもらう支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夏場クーラー、冬場エアコンを入れ室温調整をしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の種類を把握し確薬又薬剤師の先生にアドバイスを頂く事があります 主治医と定期的に連携を取り眠剤の処方を廃止する方向にさせていただく		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	じゃが芋の皮むき等食材の下ごしらえ 食べたいものを近くのスーパーに買いに行く		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お正月明「白石のから揚げと高木屋のパンが食べたい」と言われたので買い出しに行きました	入居者の希望で、買い物に出かけたり、夏場は、地域の海辺の公園にドライブに出かけて外出支援を行っている。また、天気の良い時は、玄関先の駐車場にて、手の体操をしたり・歌をうたったり・3時のおやつに茶をして楽しめる支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物やおみこしのお賽銭等本人の要望に応じて使えるよう支援		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次いだりLINEで動画や写真を送ります(希望者のみで遠くの家族)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビングや洗面所に季節の花を置いたり 娛樂室に横になれたり日向ぼっこをされています	玄関先には、プランタに季節の花を植えて、下駄箱の上には、金魚・メダカが飼ってあり入居者の癒しになっている。廊下が、広々として行事の写真が掲示しており、面会に来た方が眺める事ができる。食事の後にリビングのソファで、テレビを見たりして寛がれる姿が窺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置いたり気の合う人と座ったりできる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時家族と本人、職員が話し合いながら自分の居場所を作ってもらいます	居室は、広く、エアコン・ベット・長イス・整理筆筒・3室に、トイレが設置してある。入居者・家族と相談して、家族の写真・仏壇・家の都合で、衣類全部をケースに入れて持ち込んで、思い思いの部屋になっており、毎日掃除をして気持ち良く過ごせるように配慮してある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ケアプランに併せ手すりを付けたたり、エアマット、ポータブルトイレ、畳、マットレスを使用しています		